

巡回展 変わりゆく品川の風景 5地区のまち並み—大井地区—

期間	令和5年8月8日（火）～8月20日（日） 13日間
会場	南大井文化センター 第2講習室
観覧料	無料
観覧者数	107名

【開催趣旨】

第2回目の巡回展は、南大井文化センターで開催した。江戸時代、後の大井地区は荏原郡品川領の大井村という荏原郡最大の石高を持つ村だった。その後明治22年（1889）の町村制施行時、明治41年（1908）の町制施行時も近隣の村と合併することなく、そのまま大井村から大井町へと移行した。大井地区の多くは田や畑が広がる農村だったが、大正3年（1914）の大井町駅開業により利便性が向上し、工場や会社が進出していった。昭和に入ると沿岸部の埋め立てが進み、埠頭や運河が造成され、今に続く物流の拠点として発展を遂げるようになった。

本展示では、品川区域全体や大井地区の変遷を地図で追いつつ、大井地区の風景の移りかわりを写真や地図などのパネルで紹介した。

